

## 宇部市本庁舎建設基本構想（案）等に対する意見について

### 1 意見募集期間

#### (1) パブリックコメント

平成 27 年 1 月 26 日（月）から平成 27 年 2 月 16 日（月）まで

#### (2) 宇部市まちづくり説明会

平成 26 年 12 月 16 日（火）総合福祉会館、18 日（木）西岐波ふれあいセンター、19 日（金）船木ふれあいセンター、22 日（月）厚南ふれあいセンター

### 2 意見募集方法

#### (1) 郵送、持参、ファックス、メール

#### (2) 口頭、文書

### 3 意見提出状況

#### (1) 2 人（2 件）

#### (2) 11 人（17 件）

### 4 意見及び市の考え方

#### (1) パブリックコメント

No.	意見	意見に対する市の考え方
1	市のシンボルとして市の庁舎は古い。「庁舎を現神原小」に建てる。そのため、琴芝小・神原小・見初小の校区を考えること。水道局・警察署・裁判所等、官公庁筋になる。現在の庁舎あとは商業地として生かせばよいのではないかと。	<p>新庁舎の建設場所については、市民の利便性、安全性、経済性、まちづくりの視点等を総合的に考慮するとともに、他のまちづくりの計画とも整合性を図りながら、一体的に検討していく必要があります。</p> <p>新庁舎の場所については、スケジュールの立案が容易であることや、本庁舎の社会的役割の重要性、まちづくりの観点等を考慮した結果、「現在地及びその周辺」での建替えが現実的であると判断しました。</p> <p>なお、神原小学校と見初小学校の統合については、現在、市（教育委員会）と関係校区民が具体的な事項を協議していくための話し合いが行われていますが、具体的なスケジ</p>

		ユール等は未定となっています。
2	新市役所は 20 階以上で、宇部一高いビルにし、最上階は展望室にし、宇部の新名所にしては。	今後、策定する基本計画の中で、引き続き、市民、議会、団体、市職員、学識経験者等の意見を聴きながら、新庁舎の機能や建設規模等について検討していくこととしています。

(2) 宇部市まちづくり説明会

No.	意見	意見に対する市の考え方
①基本構想（案）全体について		
1	市民、行政、議会の意見集約となっているが、議会の委員会を除いては、一部の意見となっているのではないか。	意見の集約については、市議会特別委員会の報告書（H26.6）や市民委員会から提出された提言書（H26.12）等を踏まえ、市の庁内組織においてとりまとめ、基本構想（案）として作成したものです。 今後も、引き続き、情報を公開しながら、市民、議会、団体、市職員等からの意見を聴取し、計画に反映させていきます。
2	意見集約の前に全市民への意見募集（パブリックコメントのように固いものではなく、アンケートのようなものでも良いのではないか）は、行わないのか。 具体的な費用等も全市民への公表・公開して、意見募集をした方が良いのでは。	現在のところ、全市民に対するアンケート調査は予定していませんが、引き続き、様々な段階において情報を公開するとともに、市民、議会、団体、市職員等から意見を聴いていきます。 また、「具体的な費用等」については、今後の基本計画の中で、検討していくこととしており、これらの情報についても同様に公開しながら、意見を伺っていきます。
3	せっかく巨額の資金を使って市の中心施設をつくるのだから、まず、コンセプトや哲学を話し合うとよい。	新庁舎の建設については、これまで、市議会特別委員会（H24.12～H26.5：計 15 回）や市民委員会（H26.4～H26.12：計 6 回）、庁内組織（H24.6～：計 6 回）等において議論を重ねてきました。 引き続き、市民、議会、団体、市職員、学識経験者等の意見を聴きながら、多様な意見を計画に反映させていきます。

②新庁舎の建設計画について		
4	早く建設に取り組むべき。	<p>現本庁舎は、昭和 33 年に建設され、老朽化や耐震性、バリアフリー、防災機能、維持管理費の増大等の課題を抱えています。</p> <p>このため、これらの課題を解決していくには、市としても早急なる建替えが必要であると考えています。</p>
5	現状は、新たに建設→引っ越し→解体（公園、広場等へ）となるのか。	<p>今後、基本計画を策定していく中で、建設手法や建設スケジュール等について検討していくこととしています。</p>
6	資金計画をしっかりとする必要がある。	<p>新庁舎の建設には多額の費用が必要となりますが、基本的には、国や県の補助制度がありません。このため、平成 9 年度から庁舎建設のための基金を積み立てています。</p> <p>（H27.3 末：約 31 億 3 千万円）</p> <p>今後は、建設事業費に充当できる財源の創造や国等の交付金の活用など、後年度負担の抑制と平準化を図るとともに、建設費のみならず竣工後の維持管理や運営を含めた全ての過程において、適正かつ効果的なコスト縮減に取り組んでいきます。</p>
③新庁舎の建設場所について		
7	<p>津波などの災害が懸念されるのに、なぜ川の側に建替えるのか。建替えるのであれば、新川駅にするべき。</p> <p>現在の場所であれば、リフォームで十分である。</p>	<p>南海トラフ巨大地震等による最大クラスの津波が発生した場合を想定した「山口県津波浸水想定図（H25.12）」では、本庁舎の位置は、「津波による浸水はない区域」となっています。</p> <p>海拔については、宇部新川駅（渡辺翁記念会館：2.7m）周辺に比べ、現在地（4.7m）は高い位置となっています。</p> <p>また、本庁舎は建設から 56 年が経過し、施設や設備等の老朽化は著しく、現在の機能を 20 年間維持していくためには、20 億円以上の経費が必要（耐震補強に要する経費は含</p>

		まない。) であることから、建替えを検討しているところです。
④新庁舎の施設について		
8	老朽化が進んでいるから建て替えるのは当たり前である。新しいコンセプトで他の市にない庁舎を建ててほしい。	今後、策定する基本計画の中で、引き続き、市民、議会、団体、市職員、学識経験者等の意見を聴きながら、新庁舎のコンセプトや機能、建設規模、概算事業費、建設スケジュール等について検討していくこととしています。
9	時間があれば行きたいと思わせる魅力的な庁舎としてほしい。	No. 8 と同じ。
10	市長があいさつで言われたこともある「共存同栄」を実現するシンボルとしての位置づけが良いと思う。	No. 8 と同じ。
11	シンボリックなものとは、どのように決めていくのか。	No. 8 と同じ。
12	部課の見直しでコンパクトな行政にするべきと思える。サービス部門は各地区のふれあいセンターを重要ポイントですべきと思う。IT が発達した現代では、庁舎はあまり大きくなくてもよいのではないか。	新庁舎の窓口及び執務空間の規模については、今後、策定する基本計画の中で、現状のスペースの調査・分析を行うとともに、将来想定される職員数等を整理しながら、最適な想定空間を検討していくこととしています。
13	現在 46 課あると聞いたが、情報技術の変化、社会環境の変化に伴う課の増加、部屋の余裕等はどのように想定されているか。	No.12 と同じ。
⑤新庁舎の機能について		
14	スターバックス等を 1 階に入れたりして売り上げを税収に充てるのはどうか。武雄市等で行っているように市運営でどんどん財政を豊かにしてほしい。(図書館民営等)	今後、基本計画を策定していく中で、新庁舎のコンセプトや機能、建設規模、概算事業費、建設スケジュール等について検討していくこととしており、これらの情報についても公表しながら、併せて市民の方の意見を伺っていくこととしています。

15	<p>本庁舎の機能だけではなく、庁舎利用者の利便性も考え、テナント等の導入を検討されるとよいかと思う。</p>	<p>No.14 と同じ。</p>
16	<p>本庁舎に高潮、津波による避難設備は設けられているか。</p>	<p>新庁舎には、耐震性の確保は勿論のこと、市民の安心・安全を守る拠点施設として、また、災害対策活動の本部としての役割を十分に果たせる庁舎が必要です。</p> <p>このため、新庁舎には「防災関連システム」、「免震・制震構造の導入」、「電気・機械室の上層階化」、「自家発電機」、「備蓄倉庫」等の機能の導入を検討していきます。</p>
17	<p>県の指針に沿って、木造、内装木質は実行してほしい。</p>	<p>山口県においては、「公共建築物等における木材の利用促進に関する基本方針」を策定し、低層の公共建築物における木造化、内装の木質化を促進しています。</p> <p>本庁舎には、災害時に活動拠点となる災害応急対策を行う施設であることから、建築基準法やその他の法令に基づき、今後の計画の中で、内装の木質化等について検討していきたいと考えています。</p>